

現況分析における顕著な変化についての説明書(研究)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 総合人間学部・人間・環境学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例1 「研究成果の社会的発信」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

先に提出した事例である「メディアへの発信度ランキング」以外に、特筆すべき研究成果の社会的発信として、「新書・文庫」を多数刊行していることを挙げることができる。専門学術書と対比する一般書という形で刊行される「新書・文庫」は、学術書の10倍ないしそれ以上の部数が刊行され、また、専門的な内容を社会一般の者に向けた内容で発信するものであり、それ故強い影響力を社会に与えていると言える。このことは、本学部・研究科の特徴である諸学問分野を貫通して「総合知」を創造すること、あるいは諸分野の研究成果をわかりやすく解説する使命を持っていることによるものと考えられる。

主な例として、平成20、21年度において出版された「新書・文庫」のうち、社会的影響力の強かったものは次のとおりである。

- ・「科学哲学者柏木達彦の多忙な夏」(富田恭彦、角川ソフィア文庫、2009年6月、285頁)
- ・「科学哲学者柏木達彦のプラトン講義」(富田恭彦、角川ソフィア文庫、2009年12月、283頁)
- ・「科学哲学者柏木達彦の哲学革命講義」(富田恭彦、角川ソフィア文庫、2010年3月、283頁)

本3書は、「科学哲学者柏木達彦シリーズ」として全5巻の文庫本化が企画され、2009年度に3巻刊行された。対話体の科学哲学・言語哲学入門書として好評を博し、新潟大学など2大学で教科書として使用されている。

- ・「ハイラスとフィロナスの三つの対話」(ジョージ・パークリ著【翻訳】戸田剛文、岩波文庫、2008年4月、280頁)

本書は、哲学・文学・思想などの古典的著作の翻訳を手懸けている岩波文庫から、新進気鋭の若手が発信したことに意義がある。また、1年で2刷(1刷:6,000冊)が出た上に、法政大学など2大学でテキストとして採用されている。

- ・「エルナニ」(ヴィクトル・ユゴー著、【翻訳】稲垣直樹、岩波文庫、2009年7月、308頁)

本書は、古典主義からロマン主義へのフランス文学史上の一大転換を画する名高い韻文劇を、外国文学の古典を数十年の長い年月出版継続してきた岩波文庫から出版された文化的・社会的意義は大きい。

- ・「京大・学術語彙データベース基本英単語1110」(田地野彰、金丸敏幸、桂山康司ほか、計11名、研究社、2009年6月、272頁)

本書は、本学で実施されている英語教育である「学術目的の英語教育(EAP)」の研究(この成果は、国際英語教育学会(英国)に置いて高い評価を得ている。)の知見を応用し、英語学術語彙データベースに基づいて開発された。大学生を対象とした英単語集としては、文系分野から理系分野までカバーするものとして初めて出版された。